


第二回

平成二十七年 度 がん川柳集

がん川柳五・七・五

がん患者の思いを川柳にのせて

独立行政法人 国立病院機構

 大分医療センター

もくじ

もくじ	1	がん川柳作品	11
刊行にあたって		患者さんの句	11
		家族の句	19
		支援者の句	25
		その他	29
院長 あいさつ	2	〜第一回がん川柳集を読んで	
		皆さまの声	34
副院長・連携室長 あいさつ	3	〜がん患者の思いを川柳にのせて	
		がん川柳の啓発活動	36
緩和ケアチームリーダー あいさつ	4	あなたの一句を	39
		おわりに	40
優秀作品	5		

刊行にあたって



院長
吉 豊 室

がん川柳五・七・五しがん患者の思いを川柳にのせてというタイトルで平成二十六年度がん川柳集を平成二十七年三月に発刊しました。院内で自由に持ち帰ることができるようになりましたところ、とても好評で、院外からも希望が相次ぎ、冊子を追加印刷するほどでした。

そのため、平成二十七年年度にも再び、「がん」へのいろいろな思いを託した川柳を募集しましたところ、今回も全国から多くの作品が寄せられました。その多くを院内に掲示しましたが、すべての作品からいろいろな思いが伝わり、涙ぐんだり、笑顔になったりと共感できる素晴らしい作品ばかりであり、多くの人に読んでいただきたいと、平成二十七年年度版小冊子にしました。

二人に一人がんに罹る今、この小冊子を手に取り、「がん」への思いを共有しつつも、ひと時でも自然に笑顔が出てくることを、切に希望しています。



副院長・連携室長
穴井 秀 明

前回のがん川柳集が大変好評で、今回平成二十七年版版がん川柳五・七・五ががん患者の思いを川柳にのせてさらにグレードアップして出来上がりました。今回はがん川柳を実際に読まれた色々なかたの率直なご感想やご意見が、がん川柳を読んで皆さまの声という欄で取り上げられています。特に患者さん

ご自身が、がん川柳に接してご自分の境遇と照らし合わせ、気持ちの“共有”“共感”が実感でき前向きに人生を歩もうとされていることに感動しました。

五・七・五のわずか十七音からなる川柳であります。胸がキューンとしたり目頭が熱くなったり、笑みが出たりとてもドラマチックです。私達医療従事者こそ患者さん、ご家族の方々のがんに対する気持ちや思いを共有、共感しなければならぬと肝に銘じました。

この冊子作りに関係された患者さんをはじめ職員、すべての方に感謝とお礼を申し上げます。

皆さんどうぞ一読ください。



緩和ケアチームリーダー
高祖英典

昨年を引き続きまして「がん川柳集
がん川柳五・七・五」が発刊できました
ことは私たち緩和ケアチームとして大変
喜ばしく思います。またがん川柳にご
応募いただきました患者さん・ご家族・
支援者の皆様に感謝申し上げます。がん
川柳に込められた思いはがん患者さんや

ご家族・支援者の皆様の深層の思いを
紡ぎだしてくれているもので、私たち
医療者が直接受けることが時に難しい
ものではないでしょうか。私たちはこ
れらの川柳から得られる思いをしっかりと
感じ、そこにつらさがあれば少しでも
和らげられるように活動していきたいと
思います。この取り組みは昨年より始ま
り、まだ歴史の浅いものですが、今後も
がん川柳の取り組みが続き、当院のみ
ならず全国のがん患者さんやご家族・
支援者の皆様の支えとなることを期待
しています。

優
秀
作
品

優秀作品賞

ガン告知

雁はとぶねと

孫がいい

大分県 ガン・バロー

● 作品者からのメッセージ

この句は私が医療センターで、先生よりガンの告知を受け余命5年と告げられたとき家に帰り、福岡に嫁いでいる娘に連絡だけはないか電話していた所、電話口の傍で孫娘が雁は遠くに飛んでいくよねといっているのが聞こえて来ました。私のガンも遠くへ飛んで行ってほしいと願い、詠みました。

優秀作品賞

朝
が
き
た

生
き
て
る
悦
び

か
み
し
め
る

な
ん
に
も
仙
人

● 作品者からのメッセージ

ステージ4の告知・手術から1年余。不安だらけの1年でしたが、時間の経過に、普段と変わらぬ生活が出来ている喜びと現実の病状との表裏一体の繰り返しの日々です。眠れぬ夜もある中で、朝の明るい陽射しで目覚めると「今日も元気だ!」と一人悦びをかみしめています。

優秀作品賞

告知受け

家族の絆

ありがとう

大分県

作品者からのメッセージ

それまでは我が家には関係がない、と思っていた恐ろしい事が、或る日突然やって来ました。それも夫と娘、二人の所に。あの時を振り返って、よく乗り切れたものだと思いますが、それはやっぱり家族の心が一つになって出来るだけのことをしたから、と思えます。

優秀作品賞

前向きに

生きる姿勢を

子に見せる

兵庫県

優秀作品賞

癌で知る

人の心の

ありがたさ

大分県

患者さんの句

再検の

カメラよ全て

映し出せ

埼玉県

生き方に

見直し迫る

ガン告知

滋賀県
PON5

抗癌剤

終わったあとに

リンパ浮腫

大分県
コスモス

がんと俺

仲良く生きる

百までも

大分県

告知され

疑心暗鬼の

迷い消え

山口県

前立の

摘除生還

長寿者に

愛知県

がん検診

結果はシロで

祝い鯛

大分県
みかん親父

がん保険

モトを取ったと、

ガッツポーズ！

島根県

命ありや

許してあげる

共白髪

PETのいづ

髪だけは

持ってけ泥棒

抗癌剤

癌ダム

励ましの

言葉に勇氣

湧いてくる

宮城県

メス入る

予防と早期

する反省

神奈川県 きん坊

検診で

命をもらい

日々感謝

大分県

手放すな

果てなき夢と

刹那の今を

大分県

大丈夫

過信の言葉

悔やまれる

大分県

ひらひらと

落ちる木の葉こで

余命あと…。

大分県

癌で知る

人の心の

ありがたさ

大分県

まだ逝けぬ

妻との約束

残してる

なんにも仙人

薬り呑む

術三年

負けません

大分県
PSA

夢捨てず

足元見つめ

大地踏む

大分県

がん様と

共存共栄

わが余命^{いのち}

大分県

告知受け

家族の絆

ありがたさ

大分県

“頑張って!!”

どう頑張るの

これ以上

大分県

癌と向き

心が濡れる

虚しさよ

大分県 読み人知らず

わが余世よせい

(ノーベル賞)

「ノーヘル症」の

(脳減)

範囲内

山姥

がんニ文字

どの紙面にも

胸騒ぎ

大分県 木こり



家族の匂

前向きに

生きる姿勢を

子に見せる

兵庫県

母が言う

IPSは

使えるの

兵庫県

終りなき

始まり告げる

がんもどき

千葉県 ヒロ

昼下がり

余命忘れる

孫の笑み

滋賀県

宣告に

昭和の父は

ゆるがない

東京都

父のガン

明日は我が身と

思いつつ

熊本県 係長

般若心経

まくらの下に

忍ばせる

大分県 ふみこ

がん怖い

言いつつ老衰

死んだ母

兵庫県

心荒れ

いのちの電話

助けられ

千葉県

謔妄の

森さまよっている

弟 おと

大分県

一の矢は

医学の進歩

ガン退治

大分県

酔ってみて

ノンアルビールと

知ってても

ピロリ紫

がんサロン

夫に寄り添い

ついてゆく

大分県 プリン

多機能な

臓器にそつと

語りかけ

神奈川県

いくとせの

今なき姿に

ふと涙

大分県

耐え抜いて

ガンと知らずに

最後まで

大分県

上を向き

心の貴方と

さあ一歩

大分県 ハヤテ

重すぎて

ガンと呼ばずに

ポーンと言ひ

大分県



支援者の句

曼珠沙華

愛を残して

命逝く

大分県 萬希

最新の

医療技術を

いただこう

静岡県

若者の、

運命にぎる

習慣病

大分県

通院も

元気な証拠

また来てね

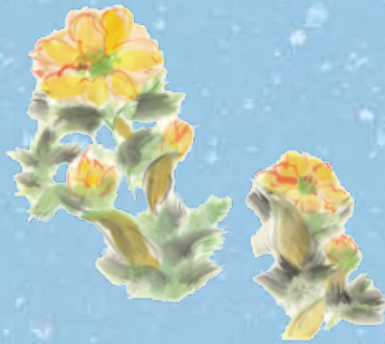
大分県

つらいけど

笑っていいこう

希望もって

福岡県





そ

の

他

怖くない

早期発見

治療だね

埼玉県

告知して

覚悟を決めて

がん向き合う

大阪府

がんになり

悔やまぬように

日々生きる

大阪府

きのうきょう

明日へリレーの

この命

奈良県

延命は

しなくていいと

子に告げる

大分県 せつこ

悔いのない、

はじめの手当て

火事とガン。

大分県

全摘の

胃がんの友は

今ゴルフ

奈良県

部屋よりも

腫瘍を片づける

魔法

大分県

婚活難民

年始め

願うは友の

無再発

大分県 ぽんぽこ商事

患者より

はりきる医者や

早期がん

大分県

術後二十年

当時の思い

今何処

大分県

再検査

がんだったら

どうしよう

大分県 チヤコ

から元気

見ぬけぬ我が身

恥じるのみ

大分県



を読んで 皆さまの声～

くすっと笑ったり、がんになった時の気持ちをおもい出し胸が詰まって読む川柳もありました。

皆さんとがんになった気持ちを共有して前向きに生きて行こうと思いました。 (患者さん)

一人で悩む事より誰かに吐き出すことが大事だと思います。皆でシェアすることにより気持ちも楽になり自分だけではないことに気づき力をもらえると思います。いろいろな患者さん、家族の方、医療関係者の方々にぜひ読んでいただきたいと思います。

これからも続けていただきたいと願います。 (家族の方)

「がん」という病気と対峙した際に前向き、悲観的、逃避的…と様々な感情が生じているという事を改めて感じた。その事を念頭に置いて今後の診療に取り組まねば、と考えさせられた。 (支援者)

私も 17 年程前に主人を癌で亡くしました。

患者さんの句、家族の句、両方の内容が良くわかります。共感出来ます。癌の告知はされた本人、家族にしかわからない。川柳を読むと、皆さん少しはわかるのでは…

次回、是非出したいです。 (支援者)

～第一回がん川柳集

色々な方の色々な想いが伝わってきました。自分の想いを川柳にして、気持ちが少しでもスッキリするのならいいことだと思いました。前向きにがん付き合おうと思います。みなさんも前向きに治療して欲しいと思います。『自分らしく』 (患者さん)

メッセージ性がとても強く、読むと涙が出てきます。 (支援者)

感動しました。今日のことを家族や知人に伝えたいと思います。 (支援者)

センターに、がん川柳を応募したことさえ忘れかけていたところ、この度、私くしのつたない川柳を小冊子に載せていただき、届けていただいたことに感謝です。ありがとうございました。がん告知を受けてから5年が過ぎました。`再発、の2文字と副作用が残る体と向き合いながらも62歳で介護現場に復職するまでの体を取り戻しました。冊子に綴られている17文字にこめた`思い、は共感できるものばかり！

同じ痛みを経験した方、支えた家族、治療の現場で支える方々が託した17文字の川柳が綴られた冊子はこれからの私の`支え、になってくれることでしょう。

冊子の刊行にご尽力された方々に心からお礼を申し上げます。(患者さん)

患者・家族の思いを身近に感じられてよかった。 (支援者)

を川柳にのせて～ 啓発活動



がん川柳表彰式



当院の外来フロア

～がん患者の思い がん川柳の



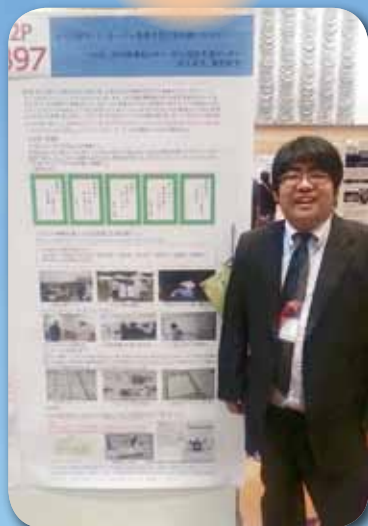
リレー・フォー・ライフ大分
2015



大分医療センター以外の
がんサロンで交流



学会発表



新聞掲載



書店にて配布



あなたの一句を



日付 (/ /)

おわりに

最後まで読んで頂きありがとうございました。全国から集まったがん川柳を通じて、皆さんはどのようなことを感じたでしょうか。

このがん川柳集冊子は今回で二回目となります。がん患者さんやがん患者さんを支えている家族・知人・支援者等が、がんになつわるエピソードや日頃の思いを、五・七・五の十七音の形式の川柳にのせて、感情表出を行心のケアを行うことやがん川柳の思いを地域・社会へ発信し、がん患者さん等の思いを共有することを目的に、二〇一五年三月に第一回目のがん川柳集を発刊しました。本冊子は、院内配布・掲示は勿論のこと、がんチャリティーイベントや当院以外のがんサロンや一般書店、県立・市立図書館の設置等の様々なところで発信することができ、がん川柳を通して多くのがん患者やがん患者を支えて

いる家族、知人、支援者の方々と『がん』の思いを繋ぐことができました。そして、この度二回目となる平成二十七年度がん川柳集が庶事刊行できたことを嬉しく思います。本冊子も多くの方々に『がん』の思いを共有できることや皆さんの心の支えになつてくれることを願っています。

最後に、本冊子をつくるにあたり、ご支援して下さったがん川柳を応募してくれた方々やがんサロンに参加してくれた方々、がん川柳に触れ共感してくれた方々、そして病院のスタッフ等に厚くお礼を申し上げます。

がん相談支援センター

ローシヤルワーカー

看護師

岡江晃見
廣田 紘子

第二回

平成二十七年 度

がん川柳集

がん川柳五・七・五

がん患者の思いを川柳にのせて

発行日 二〇一六年七月一日

発行・編集 独立行政法人 国立病院機構

大分医療センター

大分市横田二丁目十一番四十五号
電話 〇九七―五九三―一一一

